

東京都市大学塩尻高等学校 平成30年度 実施計画書

I. 目指す学校

東京都市大学グループの一員として、各種連携を図りながら総合的な魅力ある学校づくりや教育活動に励み、生徒自らが成長し、自己実現を自覚できる教育を推進する。この実現のために新生東京都市大学塩尻高等学校のNEW VISIONとして次の3つを柱とする。

(1) Evolution -21世紀型の新しい学校-

- *新校舎を含めた学習環境整備
- *国公立大学や難関私立大学への進学実現
- *高いレベルでの「科学と技術」教育の実現
- *海外研修を含む国際力の育成

(2) Creation & Dignity -創造と品格-

- *新しい豊かさを創造し、社会を変革する担い手としての尊厳を持ち、行動力に富んだグローバルリーダーを育成する。

(3) i-access -世界と”知”への道すじ-

- i** グローバル化に対応した人材と”知”を育む
- a** 高い学力・受験力の養成
- c** キャリア形成と人間力の育成
- c** クラブ活動を通じて、明るさと人間力を育成
- e** 楽しく達成感ある行事
- s** 科学と技術で世界に貢献
- s** 生徒・保護者満足の向上

II. 平成30年度の目標と方策 (抜粋)

『教育設計に関する分野』

<教育レベルの質向上>

(1) 新教育課程の編成

① 学力定着及び高大接続（大学新入試制度）に対応できる教育課程

- 教育設計部内に「教育課程改革プロジェクト」をおき、高大連携・高大接続や新学習指導要領を見据えて、教育内容に主体的・対話的で深い学びを取り入れた新教育課程表の作成。

② 探究コース

- 探究授業担当者による「探究推進プロジェクト」を設置し、内容を具体化。

(2) 教員研修の充実

- 教職員研修（校内・校外）を実施。

*大学新入試制度研修 *教科研修 *ICT活用研修（Classi含む） *新学習指導要領研修 等

(3) ICT教育の充実 新教務システムの導入

① ICT活用について…全教員の研究授業

- 教育設計部内に「ICT教育推進プロジェクト」をおき、Classiとロイロノートの活用を推進。

② 新教務システムの導入

<教育環境の充実>

(1) 心の悩みを持つ生徒への指導

(2) 資格取得率の向上

(3) 生徒・保護者の満足度向上

- ① 本校生徒の活動の様子、② アンケート

『進路指導に関する分野』

<教育レベルの質向上>

(1) 教員研修の充実

①授業づくり教科研修

- 進路指導部学習指導部と教科主任で「授業の質向上プロジェクト」を継続
 - *授業内容の精選や授業準備・情報の共有化を目的とした授業企画会議の充実。
 - *模試成績データの活用
 - *学年別と職員全体への外部模試分析報告会。
 - *授業内容の定着を図る朝テストを継続、わかる授業（「学び直し」を含む）

(2) 国際的に活躍できる人材の育成

- 進路指導部内に「国際教育推進プロジェクト」をおき下記内容を実践する。
 - *文法や語彙力・語法などの知識を効率よく習得できるよう、授業の見直し（授業内容の改善、到達目標設定、英語検定の義務付け、ボキャブラリーテストの全校実施）を実施。
- 運用能力をさらに高めるため、下記の企画を実施し、更なる英語プログラムの強化。
 - ・イングリッシュシャワー（1,2年）・イングリッシュ キャンプ（1,2年）・セブ島語学研修（1年）
 - ・留学生との交流（3年）・オンライン英会話（全学年）
- 資格取得の学年目標を設定
 - 1 学年：英検 3 級・TOEIC Bridge120 2 学年：英検準 2 級・TOEIC Bridge134
 - 3 学年：英検 2 級・ TOEIC Bridge 152
- 新テストに向け、4 技能試験（G-TEC）の受験を実施。
- 国際的に活躍できる人材の育成。昨年度からの改善点として、CAN-DO リストを基に、グランドデザインを作成する。
- 海外協定校の検討および交流活動の開始。協定校提携「交換留学（協定校提携）」については、カナダやフィリピン等の学校に連絡をとり、交換留学の実施方法を検討。

<教育環境の充実>

(1) 進学への取組

- 進路指導部内に「国公立大学合格推進プロジェクト」をおき、下記の取り組みをすすめる。
- 既存の講座や企画は基本的に継続するが、内容を精査・改善し、より充実したものにする。
 - (1)予備校講座 (2)Z会講座 (3)朝テスト(AD-T)及び補習講座 (4)Step by Step 講座(放課後講座・プリント学習) (5)センター直前講座 (6)登校講座 (7)夏期合宿 (8)論文講座 (9) classi 講座 (10)サテライト講座
- 受験戦略会議
- 学習カウンセリング
- 全国模試の実施
- センター試験受験対策
- 学習支援センターの充実
- Classi の導入
- 個人面談に基づく、一人ひとりに合った指導（学習支援センターの活用）
- Classi や模試結果、面談内容などの情報を共有化し、それらの活用

(2) キャリアセンターの充実

①就職内定率100%

○ヤングハローワーク松本・塩尻市・塩尻商工会議所・信州大学地域連携研究員・都市大との連携強化

○就職指導体制の充実として、次を実施する。また、卒業生の就職先の情報を充実させる。

*就職支援員の設置、*企業訪問、*SPI 講座の開講、*企業見学・インターンシップ

『生徒活動に関する分野』

<豊かな学園生活の構築>

(1) 部活動の活性化と強化部の拡大

*生徒活動部内に「クラブ活動活性化プロジェクト」をおき、強化部や強化部以外の運動系・文化系クラブの活性化計画をたて方針提案を行う。

*部活動加入率を特別選抜類型と文理進学類型に分けて分析し、1年ホームルームや1学年で「クラブ活動の大切さ（生徒達の間力、対人関係力、基礎体力などの向上）」を新入生に粘り強く伝え、クラブへの意識を向上させる。

*3年生の引退以外の退部状況を分析し、3年間継続して部活動に取り組める対応を行う。

*各クラブで4月の生徒会入会式でのクラブ発表や勧誘（クラブ活動の一日体験）等の工夫を行う。

*「クラブ活動の日」を月曆に組み入れ、週1日は、顧問教員がクラブ指導を優先する。

*各クラブで他クラブ（校内・校外・中学）との合同練習・合宿の企画等、創意ある練習計画（年間・月間・週間）をたて、クラブ活動を魅力あるものとする。

*地域ボランティアや卒業生・保護者からのクラブ指導者（コーチ等）の依頼を検討。

*生徒のモチベーションを維持、向上させるため、年に1回トップアスリートや著名な文化人を招き、講演会を開催。

(2) 生徒会活動の活性化

①生徒会本部・各委員会で生徒が主体となる企画の運営

②文化祭での各学年ステージ発表（半日を使い全員参加で一般にも公開）

③ボランティア活動の推進

通学路の清掃、年間各クラス1週間に1回 植栽活動年間2回通学路花植え5月から9月

④「しおじり・あさひ環境大賞」の連続受賞

⑤上記目標を達成するために生徒活動部内に「豊かなクラスづくりプロジェクト」をおく。

*生徒会が主体的に年間目標、計画を立案し活動する。執行委員会を軸に、各委員会・ホームルーム委員会での討議・活動の活性化をすすめる。そのために、生徒会の他校視察や他校交流（グループ間含む）を年間計画に組み入れる。

*生徒の自主性を重んじた行事（文化祭、体育祭、文化系発表会、ホームカミングデイ）を開催し、生徒の主体的取り組みで達成感と誇りを育成する。

*文化祭でのパネルディスカッションを実施し、学年やクラスでの文化活動を活性化する。

*地域ボランティア活動（公園や河川、通学路の清掃や植栽活動）に取り組み、地域から信頼される学校を目指す。

*「しおじり・あさひ環境大賞」受賞の意義を全生徒に報告し、これまでの取り組みに誇りを感じさせる。

*すべての生徒の居場所づくりやクラス・学年・生徒会が自主的に取り組める魅力あるクラス・学年・学校行事の計画。企画をこなすのではなく、企画を通して人間的に成長できるクラス集団づくりを行う。

(3) 生徒指導の充実

①制服着用・整容指導

②挨拶の習慣化と授業規律の改善と向上

③人権意識の向上 いじめアンケート調査を年3回(各学期)実施

*「創造と品格」を繰り返し説諭することにより、高校生らしい清潔感のある装いを整えさせ、制服の着こなしをより一層品格あるものとする。

*日常指導、身だしなみ検査、朝・夕の立門、通学路・駅・列車内指導を実施。

*日常時・授業時・職員室入退室時における挨拶や校外でのマナー指導を徹底し、挨拶の習慣を身に付ける。

*「学年指導上の基本方針」を作成し、全教職員が授業規律（開始前用意、挨拶、取組姿勢）の共通認識を持ち、授業に真剣に取り組める環境を構築する。

*情報モラル、性教育などの講話の実施。

*いじめアンケート実施により、悩んだり困ったりしている生徒を把握し、手を差し伸べる。

*ホームルームや学年・全校集会において、人権教育や情報モラル教育に取り組み、生命の尊さや多様性を受容する態度を育み、いじめや暴力、差別のない学校を目指す。